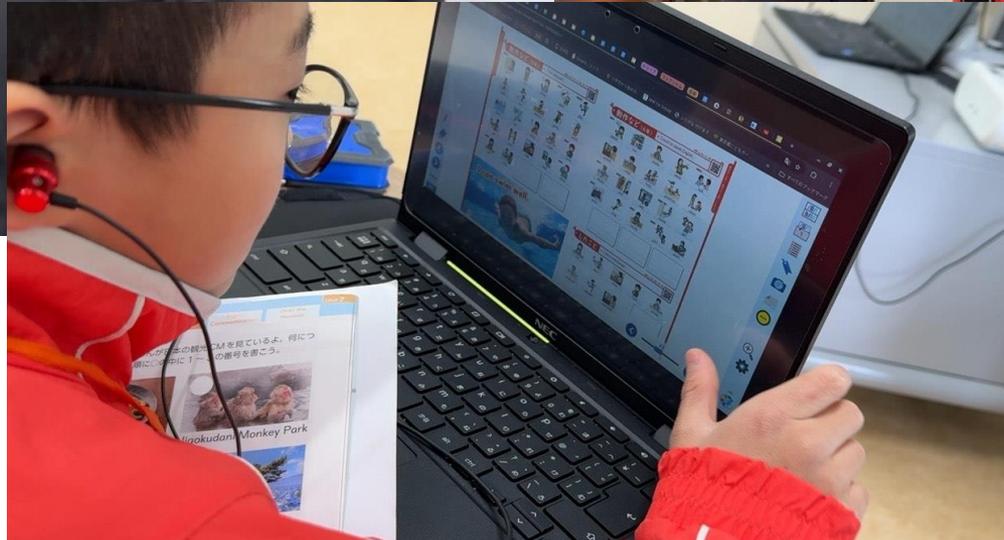
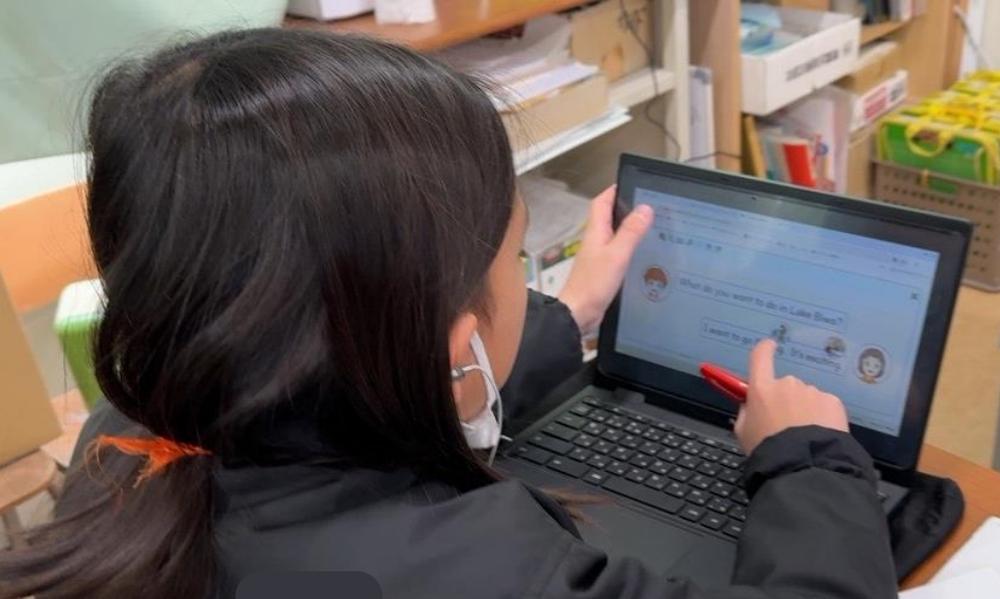


小学校第5学年 外国語



- ① デジタル教科書で個別に自身の未定着の表現を練習する。
- ② その後に、友達と英語でやり取りをし、自分の内容を振り返る。
- ①②を繰り返すことで、伝えたい内容をブラッシュアップする。

小学校第5学年 外国語 Welcome to Japan.

■単元の目標

外国人の先生に、日本の観光地の魅力を知ってもらうために、おすすめする場所やそこでできることについて、自分の考えや気持ちを含めながら、話すことができる。

■単元の概要

イングリッシュキャラバン（※1）に来る外国人の先生に、日本の観光地について、自分のことや日本のよさを加えながら、紹介する。

※1 東京都教育委員会が行っている、ネイティブ人材が児童と英語で交流する取組。

■単元の指導計画（8時間）

第1時～第2時

・指導者の話やデジタル教科書のコンテンツから、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などを把握し、学習の見通しをもつ。

第3時～第6時

・行きたい場所やしたいこと、できることなどの表現を知り、自分の行きたい場所やその場所で行いたいことなどを英語で友達と紹介し合う。

第5時～第7時

・イングリッシュキャラバンに来る外国人の先生に「行きたい」と思ってもらえるように、日本の観光地の魅力について、内容を整理して話す。

第8時

・イングリッシュキャラバンに来た外国人の先生に発表したり、発表したことを振り返ったりし、自己の成長を見つめる。

■単位時間の概要

指導者の行きたい場所の話の聞いたり、デジタル教科書にある日本の観光地の紹介場面を視聴したりして、具体的な情報を聞き取り、場面を把握する。

また、イングリッシュキャラバンで交流する外国人の先生との活動内容を考える中で、本単元の目的や場面、状況などを把握し、単元のゴールと学習計画を立て、学習の見通しをもつ。

学習者用デジタル教科書やデジタル教材を使いながら自分が表現したい内容を考え、発信までの見通しを立てる。

また、必要に応じて、語句や表現を練習する。友達や先生と実際にやり取りをしたり、全体で語句や表現などを確認したりしながら、語句や表現への理解を深めたり、内容を整理したりし、さらに自分のスピーチを深める。

自分で考えたスピーチを実際に外国語の人に伝える体験を通して、外国語で表現する楽しさを味わえるようにする。

■ 資質・能力が育成され「深い学び」が実現している子供の姿（第4時）

【学習活動の場面】

本時は、前時まで学習した語句等を用いて、単元のゴールの活動「外国の先生に、日本の観光地の魅力を伝える」に向けて、スピーチを考える場面であった。

子供が発信までの見通しをもてるように、**個別に学習者用デジタル教科書を用いて英文を聞く時間や、モデル動画を視聴して語句や表現を確認したりする時間等を十分に設定**した。

また、実際に教師や友達とやり取りする時間も設定し、自分の伝えたい内容を振り返ったり深めていけるようにした。

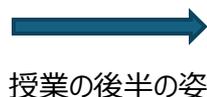
【子供の「深い学び」の姿】

Aは、スプレッドシートに、本時のめあてを次のように記した。

「外国の人は、日本のことをよく知らないと思うので、自分の行きたい日本の場所について、よりわかりやすく伝えられるようにする。」

Aは友達とやり取りをする中で、自分に足りない内容等に気付いた。また、自分の付け加えたい表現を学習者用デジタル教科書で確認した。これらを繰り返し、伝えたい内容を整理して深めることができた。

I want to go to Osaka.
I want to go to USJ.
I want to ride on (アトラクション名).



授業の後半の姿

I want to go to Osaka.
I want to go to USJ.
I want to ride on (アトラクション名).
It's roller coaster.
It's exciting.



【当該指導での「深い学び」】

コミュニケーションを行う目的や場面、状況などを、子供が自分事として捉えることができるように、**単元のゴールの活動を明確**にして言語活動に取り組んでいる。

教師や友達との対話、デジタル教科書の活用やクラウドによる振り返りの共有などの時間を指導者が設定。これにより、**子供は、自分の話したい内容に何が足りないのか・どんな語句や表現を使うとより分かりやすく他者に伝えられるのかを工夫**できている。また、**言語材料の習得と言語活動を効果的に関連付ける**よう指導者が工夫することで、子供がより表現を工夫することにつながっている。

■ 指導上の工夫とICTの利活用

①子供たちが、単元の目標を確認し、前時の学習を振り返りながら、自分のめあてを立てることができるようにする。

*スプレッドシートで前時までの振り返りを共有し、互いの学びを参考にしながら、本時の活動に見通しがもてるように、全体で振り返りを共有する時間を設ける。

②**教師や友達とやり取りをする時間と、個別で学べる時間を繰り返すことで、言語面・内容面に着目しながら、話したい内容を深めていくことができる。**

*教師は、子供の学習状況に応じて、言語面（必要に応じて練習することを含む）・内容面からの指導を行う。また、学び方の参考になるように、子供の学び方を褒めたり、広めたりする。

学習指導要領や解説との関連

学習指導要領 第2章 第10節 外国語

第2の1の(4)

(4) 話すこと〔発表〕

ウ 身近で簡単な事柄について、伝えようとする内容を整理した上で、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。

第2の3の(1)

ウ 実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うなどの言語活動を行う際は、2の(1)に示す言語材料について理解したり練習したりするための指導を必要に応じて行うこと。また、第3学年及び第4学年において第4章外国語活動を履修する際に扱った簡単な語句や基本的な表現などの学習内容を繰り返し指導し定着を図ること。

第2の3の(2)

カ 各単元や各時間の指導に当たっては、コミュニケーションを行う目的、場面、状況などを明確に設定し、言語活動を通して育成すべき資質・能力を明確に示すことにより、児童が学習の見通しを立てたり、振り返ったりすることができるようにすること。